

## RCA卒業制作展に見る ロン・アラッドの学部運営術

安積 伸 SHIN AZUMI



写真上から：【作品名】作者名/連絡先/www/所属プラットフォーム。  
 「Claws」 Eddy Mundy / eddemundy@hotmail.com / 6 三つの指先をとり合わせようなフック。  
 「Slabs」 Hajko Deberovic / mail@hajko.net / www.hajko.net / 4 片側に弾力性をもった合板が、  
 一枚の板から椅子に変化する。「Spring Chairs」 Boris Lich / borisl@icloud.com / 5  
 カンテラレバー構造でスプリングのよい椅子。種々の重さや、高さの調節が可能な。  
 「Superstella」 Hector Semano / hector@hotmail.com / 2 風船のフレキシブル素材の中に色と  
 発光灯を組み込んだ照明。重なり、柱としても使用可能。本年のフューチャーデザイン賞グランプリ。  
 「Acoustic Dutch Skate Board」 Sijn Ousevoort / sijnosevoort@hotmail.com / 3  
 ボードの音から取り出された、スマートボード一体になったスケートボード。  
 「縁起を頼りに集まるデザイン」の建築。「Communication Dummies」 Mi Sirovic /  
 mirosirovic@hotmail.com / 3 チームの構築と意思を伝えるプリング高のコミュニケーション練習。  
 「Light Swaps」 Eddy Mundy / 発光ディスプレイで出来ているプラン。  
 壁の中でも輝きだす。照明としても使用可能。「Colour Blind」 Pascal Anan /  
 pascalanan@hotmail.com / www.ansorikpama.co.uk / 6 アラッドの種々の異なる家具の  
 シリーズ。「Joseph」 Lotar Windels / lotarwindels@hotmail.com / 4  
 二枚の扁平フェルトを束ねた椅子。経年変化で使用感が椅子がより複雑な形状となる。

英国の鬼才、ロン・アラッドがロンドンの大学院大学 Royal College of Art の教授に就任して、はや3年が経つ。その間、家具デザイン科の教授に始まり、翌年にはインダストリアルデザイン科と家具デザイン科を統合、昨年はコース名もデザイン・プロダクト科と改め、2学年で60人という大学院としては異例な人数を指導する立場となった。

生徒数が膨れ上がり、巨大になった科を一人の教授が束ねるのは容易なことではない。そこで導入されたのが、プラットフォームと呼ばれる、セミ形式である。英国でこの方式を採用しているのは建築学校のArchitectural Association School of Architecture (通称AAスクール)が有名だが、ロン・アラッドもAAスクールの卒業生である。このシステムでは、生徒は1、2年生混合で、全体が6つの小グループ(プラットフォーム)に分かれ、別々の教官(チューター)が独自のプログラムを組んでプロジェクトを進行する。この6つのプラットフォームのチューターには、現役で活躍するデザイナーが賢訳に起用されており、チューターの個性がそのままユニットの方針に色濃く反映されていることは言うまでもない。

今年7月に開催されたRCAデザイン・プロダクト科卒業制作展では、展示エリアが6つに仕切られ、プラットフォーム別に卒業作品を展示し、さながら「プラットフォーム対抗」といった様相を呈していた。そして、意外にも生徒の卒業作品の質を通して、各プラットフォームのチューターの指導力が垣間見えたのが非常に興味深い。このシステムでは、生徒だけが競い合うのではなく、チューター同志もその指導力を高め合わなければならない。これこそが、ロン・アラッドの断行した組織改革の真意で、教育の質を高く保ちつつ大人数を指導することに成功している秘訣と思われる。

それでは、6つのプラットフォームの各チューターと内容を簡単に紹介したい。プラットフォーム2のチューターは家具デザイナーのジェーン・ディロンとロベルト・フェオで、今年のテーマは「What if...?」。卒業制作では、生徒作品に独特の素材感を持つものが多く見受けられた。

プラットフォーム3は、アンソニー・ダンとダレル・ビショップという、テクノロジー・デザイン踏人ともいうべき、作家性の強いデザイナーがチューターとなっている。このプラットフォームの目的は、「デザイン、生活、テクノロジーに関する議論を喚起すること」。

プラットフォーム4は、セバスチャン・バーン、コンスタンチン・グルッチがチューターを務める。家の中の事象を中心に据え、REST, EAT, WASH, WORK などのキーワードをもとに、生活のリアリティに裏打ちされたプロダクトを提案している。

プラットフォーム5のチューターは、ロス・ラヴグローブ、ピーター・ラッセル・クラーク。「インダストリアル」デザインに関する考察を深めることを目的とする。昨年のテーマは、「ミクロとマクロなレベルでのインダストリアルデザイナーの役割を考える」。

プラットフォーム6は、ジャスパー・モリソンとマイケル・マリOTTがチューターである。適応性、観察、コミュニケーション、クオリティ、機知、貢献などといったキーワードが学生に投げかけられた。

プラットフォーム8のチューターは、ダニエル・チャミーと、アーティストのガブリエル・クラスマー。「アートとデザインについて考える」ことが主なテーマとなっている。

このプラットフォーム制による学部運営システムは効を奏しているようで、本年度卒業作品の質はここ数年で最も高く感じたことを最後に付け加えておきたい。RCAのプラットフォーム・システムは、若干のチューター変更を行い、今後も続行の予定である。

●安積 伸/プロダクトデザイナー (ロンドン在住)  
 安積朋子とともに、デザインユニット「AZUMI」として活躍中。